

日本の針路が問われる参院選 全国決起集会

参院選の公示まで2カ月半となる7日、党中央委員会は全国決起集会を開きました。幹部会報告に立った志位和夫委員長は、会議の目的を、5月9日に開催する5中総に向け、党躍進の流れを作らねばならないと述べ、「戦争か平和か」文字通り日本の針路が問われる歴史的なたかいで、日本共産党の真価を發揮した大奮闘で必ず躍進を勝ち取る」と呼びかけました。報告は県委員会や地区委員会、ユーチューブなどを通じて、オンラインで視聴しました。全国では1万1000人。



報告で志位氏は、新型コロナ対応、ウクライナ問題、参院選の政治論戦と野党共闘の展望、党躍進めざす諸活動について詳しく説明しました。志位氏は「危機の中で、日本共産党の理性的・先駆的立場が發揮されている」として、4つの点で確信を持つと呼びかけました。

特別決議採択 一日も早い平和的解決を

日本共産党の樫昭二県議が事務局長を務める「高松市平和を願う市民団体協議会」は13日、22年度第1回全体会（総会）を開き、ロシアによるウクライナへの侵攻に抗議し、軍事攻撃の即時中止と平和的解決を求める特別決議を採択しました。会場では、ウクライナ支援募金活動も行われました。



決議では、プーチン政権に対して軍事攻撃の即時中止とウクライナからの完全撤退、また日本を

核兵器禁止条約に参加することは待ったなしだと強調しました。第3は、「国際世論の力で「侵略を止め、侵略者に責任を取らせ、国連憲章に基づく平和の国際秩序を回復する」という決着をつけるため、最後まで力を尽くそう」と呼びかけました。第4は、日本共産党が、「どんな国であれ、覇権主義を許さない」という歴史と綱領を持つ党であることを紹介、「どんな国であれ、覇権主義的な干渉、戦争、抑圧、支配を許さず、平和の国際秩序を築く」とした命題を書き込んでいるとしました。

まん防解除から一カ月

香川県を含めてまん防防止対策期間が全国的に解除され一ヶ月が経過しました。ある飲食店オーナー（59）が思いを寄せてくれました。



高松市中心街のスナックを切り盛りする女性は、まん防防止対策期間中店を閉めました。時短あけに来店した客は1人だったといいます。「いまだに企業が自粛ムード。会社、集団のお客さんが戻らないと、社交ムードは戻らない」といいます。国の制度も活用しましたが「3〜4年分の請求書の控えを用意したり、そもそもインターネットでの受付だったり難しかった。サポートセンターもサポートしきれていない。もう少し簡素化してほしい」と強調します。

一方、県独自の制度には助かったといえます。「県の給付に関しては簡素化してくれて不備なところは、以前は返されていましたが、今は丁寧な対応です」と評価しています。

また、取引の酒屋から話を聞くと「まん防防止対策期間に時短で開けようとした店もあったが、人がまちなに出ず、電気代も出なくなりほどなく休業にしました」と言っていたといいます。「知合いの老舗の店が、年末でやめたり、昨春秋ごろの人は、いつもの半分でした。いまは見透しが

見えつつあるも不安は半分です。人と人とのつながりが私たちの仕事ですが、コロナ後に、来なくなる」と、特に会社関係の方々は、長年、「この店がいいよ」みたいに受け継がれていくものですが、転勤などもありつながりが断ち切られる。これが一番怖いんです」とも。「3回目のワクチン接種をもっと急いで、経済が回っていく社会を強く望みます。みんなが安心して生活できるためにも、コロナ対策やワクチンを誰でも、いつでも打てるシステムを充実させてほしい」と望みました。

どんな国であれ、覇権主義は許されない 志位委員長が民青に大いに語る

日本民主青年同盟は17日、日本共産党の志位和夫委員長を講師に「社会は変わるし、変えられる」を開催し、「科学的社会主義」について学びました。党本部から全国に中継され、香川県でも多くの若者がみんまで視聴し、感想交流も行いました。

「学んだことを力にして行動していきたい」など感想が出されました。現在の情勢と関わって、「ロシアによるウクライナ侵略について科学的社会主義の見地からのような分析ができるか」との質問に、侵略の最大の原因が「帝政ロシア以来のロシアの歴史に根深く流れている覇権主義だ」と指摘。「プーチン大統領は帝政ロシアの末裔だ」と批判しました。マルクス、エンゲルスが「イギリス資本主義に対して一貫して告発してきたこと」を志位委員長は紹介し、「どんな国であれ、覇権

主義は許されない。これがマルクス・エンゲルスの立場でした」と語りました。「科学的社会主義を学ぶコツ」について「科学的社会主義を古典で読み、それは出来上がった結論ではなく、どうやってその結論が引き出されたのかという方法、流れる精神を掴むことが大切です」と語り、「自分自身の問題意識の発展に伴って読み返すと新しい発見がある」と力を込めました。



16日からワンマン化

高松琴平電気鉄道は16日からワンマン運転を開始しました。志度線の瓦町～琴電志度駅間で、通勤時間の上下1本のみ車掌が乗務します。利用者は、運転士に切符や運賃を渡すか、集札箱に切符を入れます。また、ICカードにタッチします。志度線は、1日平均の利用者が、2011年度の1万1172人から、16年度は9800人、21年上期で7640人程度。

電車設備による安全対策は、全車両に避難梯子やスロープ板を設置。全駅にホームミラーを設け、駅構内に非常ボタンも一部で整備しました。



感想交流も行いました。学生班の同盟員から寄せられた質問に志位さんが答える形の双方方向企画となり、「社会の矛盾や歴史の見方が分か